

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	兵庫県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

○	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
兵庫県	特別支援学校	知的障害	ひょうごけんりつこうとうとくべつしえんがっこう 兵庫県立高等特別支援学校
兵庫県	高等学校	定時制課程	ひょうごけんりつありまこうとうがっこう 兵庫県立有馬高等学校
兵庫県	特別支援学校	知的・肢体	ひょうごけんりつはりまどくべつしえんがっこう 兵庫県立播磨特別支援学校
兵庫県	特別支援学校	知的障害	ひょうごけんりついずしとくべつしえんがっこう 兵庫県立出石特別支援学校

※協力校（22校）

ひょうごけんりつしかくとくべつしえんがっこう
兵庫県立視覚特別支援学校

ひょうごけんりつこうべちょうかくとくべつしえんがっこう
兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

ひょうごけんりつひめじちょうかくとくべつしえんがっこう
兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

ひょうごけんりつとよおかちょうかくとくべつしえんがっこう
兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校

ひょうごけんりつはんしんとくべつしえんがっこう
兵庫県立阪神特別支援学校

ひょうごけんりつあしやとくべつしえんがっこう
兵庫県立芦屋特別支援学校

ひょうごけんりつこやのさととくべつしえんがっこう
兵庫県立こやの里特別支援学校

ひょうごけんりつはんしんこやとくべつしえんがっこう
兵庫県立阪神昆陽特別支援学校

ひょうごけんりつひかみとくべつしえんがっこう
兵庫県立氷上特別支援学校

ひょうごけんりついなみのとくべつしえんがっこう
兵庫県立いなみ野特別支援学校

ひょうごけんりつひがしはりまどくべつしえんがっこう
兵庫県立東はりま特別支援学校

ひょうごけんりつきたはりまどくべつしえんがっこう
兵庫県立北はりま特別支援学校

ひょうごけんりつひめじとくべつしえんがっこう
兵庫県立姫路特別支援学校

ひょうごけんりつひめじしらさぎとくべつしえんがっこう
兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校

ひょうごけんりつあこうとくべつしえんがっこう
兵庫県立赤穂特別支援学校

ひょうごけんりつにしはりまどくべつしえんがっこう
兵庫県立西はりま特別支援学校

ひょうごけんりついずしとくべつしえんがっこうみかたこう
兵庫県立出石特別支援学校みかた校

ひょうごけんりつあわじとくべつしえんがっこう
兵庫県立あわじ特別支援学校

ひょうごけんりつこうべとくべつしえんがっこう
兵庫県立神戸特別支援学校

ひょうごけんりつのにじぎくとくべつしえんがっこう
兵庫県立のじぎく特別支援学校

ひょうごけんりつわだやまどくべつしえんがっこう
兵庫県立和田山特別支援学校

ひょうごけんりつうえのがはらとくべつしえんがっこう
兵庫県立上野ヶ原特別支援学校

2 研究課題

特別支援学校高等部卒業生の一般就労率（H27実績：22.4%）を平成30年までに全国平均並に引き上げるため、県、地域、各校における重層的な、労働や福祉等の関係機関と連携した就職支援及びアフターフォローの体制を構築するとともに、生徒が身につけた技能を公的に証明する認定資格及び、生徒の就労意欲を引き出す実践的なカリキュラムの開発にかかる調査研究を行う。

3 研究の概要

- (1) 障害のある生徒への就職支援体制及びアフターフォロー体制の構築にかかる研究
これまでの本県のキャリア教育・就労支援にかかる成果と課題、県レベルでの推進方策を検討する「特別支援学校就職支援推進会議」の意見を踏まえ、平成 28 年度も引き続き 3 地域のモデル校に就職支援コーディネーターを配置し、地域の実情に応じた就労支援を実践した。
- (2) 生徒の就職への意欲を高め、就職者拡大を図る教育実践の調査研究
- ① 平成 27 年度に企業関係者と連携し開発した、認定資格兵庫モデル案をもとにプレ検定を実施し、その評価の妥当性を検証するとともに、平成 29 年度の本格実施に向けて、指導の手引きを作成した。
 - ② 「特別支援学校就職支援推進会議」の意見を踏まえ、モデル校において、企業ニーズの高い「物流・品出し」にかかる認定資格の新たな開発に向けた調査研究を実施した。
 - ③ 作業学習等では、昨年度「ビルクリーニング」または「喫茶サービス」のいずれか一方を年間指導計画に位置づけて取り組んだが、今年度は昨年度と異なる部門に取り組み、実践的段階的な指導への改善を図った。
 - ④ 各特別支援学校で外部人材の参画による授業検討会を実施し、いただいた助言を活用して、指導方法の工夫等、授業改善を行った。
 - ⑤ 高等学校においては、就職支援コーディネーターを活用して、発達障害等のある特別な支援を必要とする生徒に対する個別の教育支援計画等にもとづくキャリア教育・就職支援や教職員への理解啓発研修等について、特別支援学校のセンター的機能を活用して推進を図った。

4 研究の成果

- (1) 障害のある生徒への就職支援体制及びアフターフォロー体制の構築にかかる研究
就職支援コーディネーターの企業等開拓により、現場体験実習先等が十分に確保され、県立特別支援学校の一般就労率は 2 月時点で、昨年度より 1.5% 向上の見込みである。企業等への訪問件数は合計 615 件で、開拓した企業情報を地域内の特別支援学校で電子メールにより共有するシステムを作った。また、一般企業に就職した卒業生の 3 年後の定着状況を調査したところ、17.2% が離職していたが、そのうちの約 3 割が次の仕事に就いていた。
- (2) 生徒の就職への意欲を高め、就職者拡大を図る教育実践の調査研究
- ① 県内 6 会場において、ビルクリーニング部門と喫茶サービス部門のプレ検定を実施し、61 名の高等部生徒が受検して、評価に応じた認定証を県教育委員会から交付した。しかし、評価基準の統一と妥当性に問題が生じたため、兵庫モデル評価表の評価基準と点数計算の方法を見直して改善を図った。また、改訂した評価表の基準に合わせた指導の手引きを改訂し、各学校へ配布した。
 - ② 新部門「物流・品出し」の開発に向けた調査研究を行い、モデル指導案の作成と必要な資機材の選定を行った。
 - ③ 作業学習等の実践的段階的な指導への改善を図るため、技能検定の受検を念頭に、教員向け講習会を開催し、指導の手引きを作成・配布した結果、各校の指導が充実し、生徒が目標を持って取り組むなどの成果があった。

- ④ 外部人材の参画による授業検討会で、企業等から外部講師を招いて、より専門的な助言を受けられたことにより、生徒の意識や意欲が各段に高まった。また、得られた助言を指導に活用することで、授業がより実践的に改善された。
- ⑤ 高等学校モデル校の3年間の取組を発信するために、高等学校、特別支援学校、市町教委を対象とした実践発表会を実施し、個別の教育支援計画等にもとづく就職支援や校内研修等について実践発表会を行った。

5 課題と今後の方策

(1) 障害のある生徒への就職支援体制及びアフターフォロー体制の構築にかかる研究

就職支援コーディネーターが開拓した企業情報を地域で共有するシステムを作ったが、各地域の全域をカバーすることは困難であった。そこで今後は、モデル校から離れた特別支援学校の就職支援体制整備が課題であり、平成 29 年度は未開拓地域の学校に就職支援コーディネーターを配置する。

また、一般企業に就職した卒業生の定着促進のため、障害者就業・生活支援センター等と在学中から連携した支援体制の強化を図る。

(2) 生徒の就職への意欲を高め、就職者拡大を図る教育実践の調査研究

今年度のプレ検定の受検者数を各校5名までと制限したが、本格実施となる来年度の受検者はかなりの増加が見込まれる。運営委員も増員の予定であるが、スムーズな運営と審査基準統一の徹底が課題である。また、「特別支援学校就職支援推進会議」において、新部門も含めた技能検定の内容について、受検者の障害や特性に応じた合理的配慮のあり方を検討し、認定証にアセスメントの機能を持たせることで、生徒の技能をよりの確に証明できるとの提言を得たので、来年度の認定資格開発作業部会で検討する。

独自に開発した認定資格が生徒の就職活動で優位に活用されるためには企業への周知が課題であり、作成したリーフレットを企業訪問時に持参し、紹介する他、労働局や主要経済団体等を通して県内の企業に配布し、理解啓発の推進と技能検定見学の促進を図る。